

出席者：田原・中村・長野

ミーティングは意見や希望、考えを自由に出し合う場です。決定事項ではありません。

1 クラブの改革

現体制では頭打ち、これから過渡期に

・環境、雰囲気改革

否定的なマイナス発言が多い → 発展的で建設的な意見を、愚痴やマイナス発言を暫く制限

したらいかん・せないかん・アイツはダメ → こうしたい・ああんりたい・アイツのココがスゴイ

悪口や批判が多く、誉める発言が少ない → ボランティア参加自体が誉められる、敷居を低く

細かい欠点を指摘するのではなく、大きな視点で、クラブのビジョンを考える空気感

九州は潜在的に、批判する風土があるのでは → それらは克服しなければ

出来ていないことを批判する → ひとつひとつ地道に教えていく(優しく)

人の指摘は諸刃の剣、完璧な人間はいない、人のことを言う前に自分を振り返り我を伸ばしていこう

やりたいこと、得意なことを伸ばし、それらを探せる環境づくり

全員でひとつのことをするのではなく、これからは分担化・専任化・組織化

考えて、話し合っ、実行できると、責任感・危機感・達成感・やりがいがあるクラブになるのでは

ミーティングもワークショップ形式など、より発展的に実践的に

現環境でやりがいを見出せず、遠ざかる・辞めていくメンバーがいることは非常に残念な環境

義務や仕事でやっているのではなく、ボランティアの善意・ヤル気での活動だという共通認識

プロ意識は一長一短、技術や知識を強要しているのでは？教育は必要だが、伝え方が重要

ボランティアに年齢は関係ない、最低限の社会マナーがあればみな同等、年上を意識しすぎることはない

・運営体制の改革

現在の運営体制では、現在の状況程度が限界なのではないか？

現在のトップダウン体制では限界、これからボトムアップ体制へ

委員会制度を導入しては？(来年度から運用開始へ向けて検討)

まずは枠組みを大きく変革して、受け皿を大きくしたほうがよい

委員会は委員長がいて、各委員と委員会を開催し、各々の分野でクラブ全体の発展を目指すイメージ。

2 現 BBS から新システム移行

・シンプルに

わかりやすく、書き込みやすく

現 BBS の機能を原則踏襲

・来年度運用開始を目指して

取扱方法などを近日中にまとめる

3 その他

資金の使い道は優先順位を熟考して、チューブ・レシーバーなどパトロール優先に